

## 令和7年度 関東森林管理局保護林モニタリング評価専門委員会

■開催日時：令和8年2月10日（火） 13:30～16:00

■開催場所：関東森林管理局 5階中会議室（WEB併用開催）（群馬県前橋市）

■出席者（五十音順、敬称略）

区分	氏名	所属等	備考
委員	磯田 圭哉	森林総合研究所 林木育種センター 遺伝資源部長	座長
	大場 孝裕	静岡県 志太榛原農林事務所 森林環境班長	WEB
	上村 真由子	日本大学 生物資源科学部 森林学科 准教授	WEB
	櫃間 岳	森林総合研究所 林業研究部門 森林植生研究領域長	WEB
	横山 隆一	公益財団法人 日本自然保護協会 参与	
局	伊奈 康治	関東森林管理局 計画保全部長	
	笹木 征道	関東森林管理局 計画課長	
	柳下 英樹	関東森林管理局 計画課 自然遺産保全調整官	
	黒沢 幸一	関東森林管理局 計画課 自然再生指導官	
	中村 潤	関東森林管理局 計画課 林地保全企画官	
	森内 賀久	関東森林管理局 計画課 森林施業調整官	
	齊藤 洋介	関東森林管理局 計画課 経営計画官	
	砂原 美咲	関東森林管理局 計画課 生態系保全係	
モニタリング 受託者	安藤 伸彦	(株) 環境指標生物 企画統括マネージャー	
	志賀 弘貴	(株) 環境指標生物	WEB

## ■議事次第

1. 開会
2. 委員会出席者紹介
3. 関東森林管理局挨拶
4. 議事
  - (1)令和7年度保護林モニタリング調査結果及び現状評価について
  - (2)小笠原諸島森林生態系保護地域のモニタリング調査結果について
  - (3)令和8年度保護林等モニタリング調査について
  - (4)保護林へのシカ柵設置にかかる対応状況について
  - (5)その他
5. 閉会

## ■配布資料一覧

1. 議事次第
2. 出席者名簿
3. 配布資料一覧
4. 会議資料
  - (1)令和7年度保護林モニタリング調査結果及び現状評価について（資料1）
  - (2)小笠原諸島森林生態系保護地域のモニタリング調査結果について（資料2）
  - (3)令和8年度保護林等モニタリング調査について（資料3）
  - (4)保護林へのシカ柵設置にかかる対応状況について（資料4）
5. 参考資料
  - (1)関東森林管理局保護林モニタリング評価専門委員会運営要領（参考1）  
小笠原諸島森林生態系保護地域部会運営要領
  - (2)保護林モニタリング調査方法（参考2）

## ■議事概要

### 1. 令和7年度保護林モニタリング調査結果及び現状評価について

#### (1) 令和7年度保護林モニタリング調査結果及び現状評価の説明（受託者）

令和7年度に実施した保護林モニタリング調査結果等とその現状評価を説明した。

#### (2) 主な協議・確認事項

今年度の調査結果を踏まえて、現状の評価や今後のモニタリングについて確認した。皮子沢モミ希少個体群保護林については、状況を確認のうえ、モニタリング間隔を10年とすることについて意見を求めることとした。それ以外の保護林については次回調査は提案どおり実施することで了解した。

主な委員の意見は以下のとおり。

#### ○雄国沼湿原希少個体群保護林

- ・ニホンジカやイノシシに掘り返された後があることから、森林官が巡視する際にこれら動物による掘り上げの面積拡大を注視する必要がある。
- ・水位の変動については、前回からどの程度減少したのか数値で示すことができると良い。例えば、水位計を設置するなど可能な限り定量的な方法が良い。

#### ○八丁池・皮子平生物群集保護林

- ・鳥類調査について、報告書に確認種のリスト及び調査年月日と時間を記載してほしい。

#### ○皮子沢モミ希少個体群保護林

- ・プロット内の変化については、（調査対象立木の）胸高断面積合計を見ることで数値として判断できると思う。
- ・プロット内で大径木が2本消失しているということが資料からはわかりづらいことから、わかる範囲で林分の概況が把握できる記述があると良い。

#### ○しらぬたの池モミ・スギ希少個体群保護林

- ・モリアオガエルの産卵環境として好適な状態であると記述されているが、その根拠が資料では見あたらない。カエル類のデータを収集している民間の研究会や組織について追加して確認する必要がある。
- ・産卵時期と水位低下が関連しているか確認するため、水位の調査時期などの情報を記述してほしい。

○黄楊の峯ツゲ希少個体群保護林

- ・現地について、平成初期にはスズタケやミヤマクマザサが林床を覆っていたと認識しており、平成22年のモニタリング調査時点にはこれらササ類が衰退していたと思う。保護林の変化を概要として書くことが必要と思う。

2. 小笠原諸島森林生態系保護地域のモニタリング調査結果について

(1) 小笠原諸島森林生態系保護地域のモニタリング調査結果の説明（局）

令和7年度小笠原諸島森林生態系保護地域のモニタリング調査結果を説明した。

(2) 主な協議・確認事項

小笠原については、報告された現状を踏まえてモニタリング状況を確認した。

3. 令和8年度保護林等モニタリング調査について

(1) 令和8年度保護林等モニタリング調査の説明（局）

令和8年度保護林等モニタリング調査の調査箇所や留意事項を説明した。

(2) 主な協議・確認事項

令和8年度保護林等モニタリング調査について確認した。主な委員の意見は以下のとおり。

- ・衛星画像等により面的状況を把握するとあるが、エリアで区切り林冠高の面積を抽出するなど数値化して評価することが重要である。どの程度の被害があるのか、比較もしくは変化を追い定量的に評価する必要がある。
- ・丹沢山地生物群集保護林、西丹沢ブナ希少個体群保護林、西丹沢モミ希少個体群保護林について、樹木の更新が不能になっている状態や土壌の流出状況など各保護林として評価されているが、緑の回廊と保護林の状態を総合的に評価し地域全体として対策について考察してほしい。個別の保護林の評価のみに留めないでほしい。

4. 保護林へのシカ柵設置にかかる対応状況について

(1) 保護林へのシカ柵設置に係る対応状況について

関東森林管理局管内の保護林におけるシカによる森林被害対策のため、実施状況について説明した。

## (2) 主な協議・確認事項

保護林へのシカ柵設置にかかる対応状況について確認した。主な委員の意見は以下のとおり。

- ・シカ柵については機能が続くよう、巡視の制度化などシステム化するべきである。台風の後に巡視するといった関連づけをするのも良いと思う。破壊されたシカ柵を 1 か月放置しただけで植生が全滅することもあるので、壊れたらすぐに修繕するような仕組みを考えてもらいたい。

## 6. その他

- ・特定の野生生物を対象とした保護林は、その生物の生息環境を守ることが目的だと思うが、モニタリング調査において、保護対象のための生息環境を調べていることがほとんどないのが現状である。そのため、モニタリング調査マニュアルには生息環境の調査や評価の方法を掲載するべきである。なお、火打山周辺ライチョウ希少個体群保護林では環境省や新潟県がライチョウの調査をしている例があるので、それら他の行政機関のデータも引用のうえ報告書に適切に反映させるべきである。

以上